

(概要版)

自分自身への気づきを深める生活科指導の工夫

— 「気づきマップ」を活用した伝え合う活動や振り返る活動を通して —

長期研修Ⅱ研修員 加藤 靖和

課題

生活科



自分に自信がある子どもが国際的に見て少ない。

PISA 調査や内閣府の調査など

「自分にもできることがあることに自信をもつ」「やり遂げた自分のがんばりを感じている」のような自分自身への気づきが少ない。

国立教育政策研究所教育課程研究センターによる指定校調査

実際の生活科授業でも

指示を待って行動することが多い

細かいことを確認しないと次の活動に移れない

これでいいですか？

できないとすぐ人に頼む

このあと、なにをすればいいんですか？

せんせい、やってください。

自分の指導を振り返ると

必要以上に学習材を与えたり対象とのかかわり方を指示したりして、児童が自発的に活動する中で自分のよさに気付く機会を奪っていた。

単元の終わりに振り返る活動をする事が多く、活動する中でお互いのよさや工夫を伝え合い、認め合う機会をつくらなかった。

直接、自分自身への気づきを深める学習として内容(8)があり、他の内容で自分自身への気づきを深めようとする意識や働きかけが弱かった。

その結果

児童は自分のよさや成長など自分自身への気づきを深めることが少なく、自信をもって活動することができないのではないかと考えた。

手立て

「気づきマップ」を活用した伝え合う活動や振り返る活動を取り入れることで、児童が自分自身への気づきを深める授業実践を行った。

そこで



研究の内容

「気付きマップ」を活用した伝え合う活動や振り返る活動を取り入れ、「出会う」過程で自分の興味・関心、「かかわり合う」過程で自分の得意としていることや工夫したことなど、自分のよさに目が向けられるようにする。さらに、「振り返る」過程で以前より成長した自分に気付くことができるようにする。

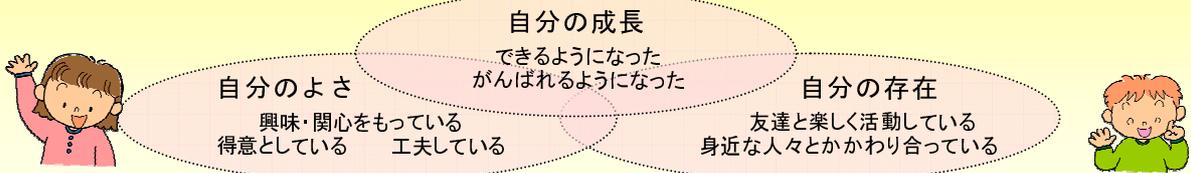
このような自分自身への気付きを深める学習活動を、生活科の他の単元においても繰り返し行うことにより、児童は自分のよさや成長を実感するようになる。そして、「自分のよさをもっと生かしたい」「自分をもっと伸ばしたい」という思いや願いをもつことで、意欲と自信をもって活動することができる児童の育成につながると考えた。

研究の構想

目指す児童像
自分のよさや成長に気付き、
意欲と自信をもって活動できる児童



それまで気付かなかった自分の存在・よさ・成長に目を向け、自分自身への気付きを深める



気付きマップとは

対象への気付き、友達からのメッセージ、活動の写真などを掲示することで、自分や友達のよさを伝え合えるようにしたもの。また、学習の道筋を振り返る手掛かりとすることで、自分の成長を実感できるようにしたもの。

「出会う」過程

伝え合う活動

対象への様々な気付きを「見つけたよカード」に表現し、「気付きマップ①」にまとめたり比べたりすることを通して、活動してよかったことを伝え合う。

「かかわり合う」過程

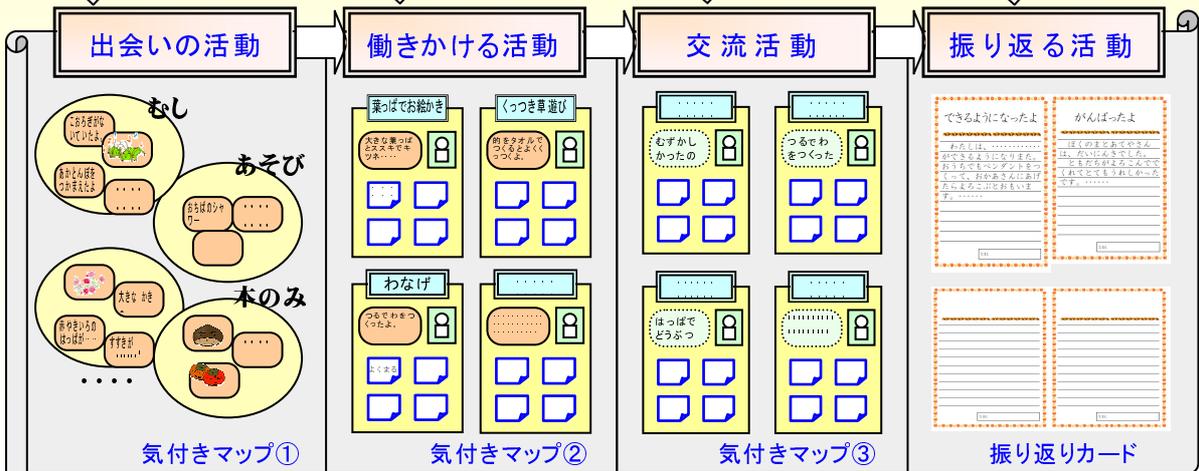
伝え合う活動

対象に自発的に働きかける中で気付いたこと、それに対するメッセージを「気付きマップ②」を通して交換し、取組のよさや工夫を伝え合う。

「振り返る」過程

振り返る活動

気付きや活動の道筋を「気付きマップ①②③」を通して振り返り、できるようになったことやがんばれるようになったことなどを見付ける。



- オレンジ色 ... 見つけたよカード(見つけたこと、気付いたことなど)
- 青い紙片 ... すごいねカード・ありがとうカード(友達からのメッセージ)
- 緑色 ... できたよカード(できるようになったこと、してあげられたこと)
- 赤色 ... 思いや願い
- 写真 ... 活動の写真

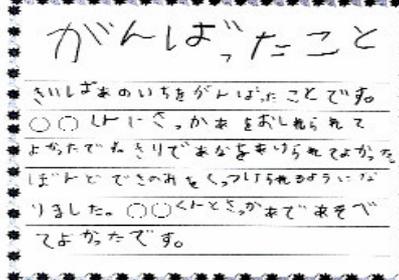
児童の実態

授業実践の様子

単元名 すいすいさわやか きもちがいいね
(小単元…あきののやま、つくってあそぼう)

- 目標 ○身近な秋を見付けたり秋の自然を利用して遊びや遊びに使う物をつくったりして、季節の変化や自然物を使った遊びの面白さに気づき、自分たちの生活を工夫したりみんなで遊びを楽しんだりする。
○それまで気付かなかった自分のよさに目を向け、以前より成長した自分に気付く。

主な学習活動	気づきマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動	児童の気づきや変容
<p>春や夏との違いを見付けよう</p> <p>野山に出かけ、秋を楽しもう</p>	<p>「見つけたよカード」に見付けたこと・気付いたことなどを表現する。</p> <p>「見つけたよカード」を基に、気づきを紹介し合う。</p>  <p>「見つけたよ」カード</p>	<p>秋への気づき</p> <p>活動する楽しさへの気づき</p> <p>気づきの再確認</p>
<p>「気づきマップ①」を活用した伝え合う活動</p> <p>秋への気づきや活動してよかったことを伝え合おう</p>  <p>気づきマップ①</p>	<p>興味・関心をもっていることに気付く</p> <p>「見つけたよカード」を、いくつかの種類にまとめたり友達の気づきと比べてりしながら「気づきマップ①」に貼っていく。</p> <p>またつるで遊びたいな。</p> <p>先生、実がこんなにあります。</p> <p>ぼく、こんなに見付けました。</p> <p>わたしのカード全部木の实だ。</p> <p>ちょうちよつかましたよ。</p>	<p>児童の気づき</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな種類の気づきがある。 ○自分は気付かなかったけど、友達は気付いていたことがある。 ○種類によって多い気づきと少ない気づきがある。 <p>活動してよかったことを伝え合うことで、B児は「〇〇くんと実を見付けて、〇〇くんとふたりのものになりました。」と木の実に興味・関心をもっていることに気付くことができた。</p> <p>自分自身への気づき</p>
<p>「気づきマップ②」を活用した伝え合う活動</p> <p>おもちゃやかざりをつくろう</p>  <p>B児がつくったサッカーゲーム</p> <p>おもちゃやかざりを紹介し合おう</p>  <p>気づきマップ②</p>	<p>自分や友達のよさに気付く</p> <p>気付いたことや工夫したことなどを「見つけたよカード」に書き、「気づきマップ②」に掲示して伝え合う。</p> <p>友達の気づきに対する意見や感想などのメッセージを「すごいねカード」で伝える。教師も、気づきに対する共感や励ましなどのメッセージを「すごいねカード」で伝える。</p> <p>「気づきマップ②」を基に取組のよさや工夫を伝え合う。</p> <p>みつけたよ きいばあをたくさんつくったよ。たくさんつくれるようになったよ。</p> <p>さつがあげようがすごかったね。 ゴールまでいけるかな。たいせんするのがとてもたのしみ。きのみがいっぱいだね。</p> <p>〇〇くんのさつがあげようがすごかったよ。 サッカーゲームをつくったのがすごいアイデアです。きのみをのせしゆがいっぱいね。先ずいね。</p> <p>第9・10時のB児の「見つけたよカード」と、それに対する「すごいねカード」</p> <p>しぼんをちがつかえるおラレになったのほうれしかった。 ぼくのほうれいししかいがかなるかうれしかった。 かんか実たのかうれしかったです。</p>	<p>児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つけたよカード」を書くことで自分の活動を振り返り、作品のよさや取組の工夫に目を向けることができた。 ○友達や先生からメッセージをもらうことで、自分の活動が認められたと感じ、自信をもつことができた。 ○友達にメッセージを書くことで、友達の考えを自分の活動に取り入れて生かすことができた。 <p>自分自身への気づき</p> <p>B児はアイデアがいいと友達から認められことで自信をもち、よく考えて工夫できた自分のよさに気付くことができた。</p>

主な学習活動	気付きマップを活用した伝え合う活動や振り返る活動	児童の気付きや変容
<p>「気付きマップ③」を活用した伝え合う活動</p> <p>みんなで遊んだりつくったりしよう</p>	<p>かかわり合う楽しさに気付く</p> <p>活動しながら、できるようになったことや友達に教えられたことを「できたよカード」で伝え合う。</p> <p>友達へのお礼を「ありがとうカード」で伝える。</p> 	<p>自分のよさを生かす</p> <p>友達のよさを実感する</p> <p>友達とかかわり合う楽しさに気付く</p>
<p>「気付きマップ①～③」を手掛かりにした振り返る活動</p> <p>活動を振り返り、成長した自分を見付けよう</p> <p>「気付きマップ①」を基に、学校や野山で活動してよかったことを振り返る。</p> <p>「気付きマップ②」を基に、遊ぶ楽しさや遊びを工夫した楽しさを振り返る。</p> <p>「気付きマップ③」を基に、友達や先生とかかわって遊んだり教え合ったりした楽しさを振り返る。</p> <p>その後、一人一人が時間をかけて「気付きマップ①～③」をじっくり見直し、自分の気付きや活動してきた道筋を再確認する。そして、できるようになったことやがんばれるようになったことなどを見付ける。</p> <p>気付きマップ①～③を一人一人が見直す</p> <p>自分自身への気付き</p> <p>B児は、サッカーゲームを工夫してつくったこと、友達と遊んだこと、その友達につきり方をずっと教えたことを再確認した。そして、自分の成長を「道具が使えるようになったこと、工夫してつくれるようになったこと、友達とかかわりをもてたこと」と捉えることができた。</p>  		

研究のまとめ

自発的に対象へ働きかけたことが、伝え合う活動を通して友達や教師から認められたことで、児童は自分のよさに気付き、自分の活動に自信をもつことができた。そして、自分のよさを生かして活動したり、友達のよさに積極的に触れたりするなど、身近な人々とかわる楽しさに気付くことができた。

伝え合う活動に活用した「気付きマップ」が、振り返る活動で気付きや活動の道筋を思い出す具体的な手掛かりとなり、自分の成長に気付くことができた。

伝え合う活動や振り返る活動を通して自分のよさや成長に目を向けたことで、内容(8)以外の学習においても、働きかける対象への気付きとともに自分自身への気付きも深めることができた。

児童の気付きや活動の様子が常時掲示されていることで、教師が児童のよさや工夫を具体的に把握することができ、一人一人の児童理解が深まるとともにゆとりをもって児童と接することができるようになった。

成果



課題

遊んだり製作したりする途中で気付きをカードに表現するのは、一年生には難しかった。そのため、記入することが嫌になったり何を書こうか迷ったりしないよう、書くための時間を確保するとともに、他の教科においても書く活動を充実させる必要がある。

児童が気付いた自分のよさや成長は、すべて人や自然との具体的なかかわりを通して気付いたことだった。したがって、児童が自覚していない自分のよさや成長に気付くことができるようにするためには、人・社会・自然などのかかわりを広げ、児童の具体的な活動や体験をより豊かにする必要がある。

意欲と自信をもって生活できるようにするためには、他の単元や生活科以外の教科でもよさや成長に目が向けられる活動を取り入れ、自分自身への気付きを深めていく必要がある。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター
 担当係：幼児教育センター 0270-26-9221 (直通)

